

令和4年度 第3回防府市中小企業振興会議 会議録

日時 令和5年2月17日(金) 午前10時から

場所 防府市創業・交流センター 2階会議室

出席委員 10名

欠席委員 4名

事務局 8名

1 開会挨拶

【市長】

本日は、御多忙の中、防府市中小企業振興会議へ御出席いただき感謝する。

第2回目会議では、令和4年度実施の中小企業振興施策、中小企業振興基本計画の変更(案)、物価高騰等の影響について様々な御意見をいただいた。厳しい財政状況の中、御意見等を参考に令和5年度予算を作成した。

令和5年度予算では、新庁舎の建設や競輪場の建て替え工事、国道2号の台道4車線化の早期事業化を図るなど、防府のまちが変わっていく。

本日は、令和5年度の中小企業振興施策を説明するが、大事なはその先。これからの状況を踏まえて、来年度(令和6年度)に何が必要か、次のステップを考えながら中小企業振興施策を考えていきたい。また、第2期中小企業振興基本計画の最終案を提示するので、御意見を頂戴したい。

【事務局】

○ 会議成立の報告

14名の委員中、10名の出席で、防府市中小企業振興会議規則第3条第2項の規定に基づき、本会が成立していることの報告。

○ 会議の公開

防府市中小企業振興会議規則第3条第4項の規定により、本日の中小企業振興会議は公開とする旨の報告。

【会長】

ウクライナ問題等により物価が高騰し、世界経済が変わってきている。そうした中、トリプルボトムライン(社会的側面、環境的側面、経済的側面の3つの軸で評価)が重要であり、企業は収益だけを追求する時代ではなく、社会環境に配慮して動かなければならない。企業の社会的責任が大きくなってきている。

また、カーボンニュートラルを含めた働き方改革をしていかなければ、投資家が日本の企業に投資をしなくなり、世界と戦えなくなる。

重要なのは、イノベーションを起こし、より効率的な形で達成していくこと。新たなコストがかかる取組みを行うことは難しいと思うので、知恵を絞って考えていくことが必要である。中小企業も含め、これを乗り越えていくことで明るい未来が待っている。

市長のリーダーシップのもと、DXやカーボンニュートラルを含めた中小企業振興策を考えていく状況であるので、忌憚のない御意見を願います。

2 令和5年度中小企業振興施策について

【事務局】

～令和5年度中小企業振興施策について概要説明～

令和5年度防府市中小企業振興会議関係予算（案）の概要を一括説明。

《意見等》

【A委員】

令和5年度予算の概要では、中小企業の振興に関してよく考えられている。コロナ禍ではあるが、中小企業にとっては、新たな動きがもうすでに出来てきていて、様々なライフスタイルも含めて変わってきている中で、そこを網羅し、次に頑張って進んでいける予算になっている。

駅中心でまちづくりが行われているので、駅を中心に、しっかりした街の顔を作っているという予算になっていると感じる。

防府市は、常に動いていることで活性化している。

【B委員】

人手不足については、建設業関係が厳しいと聞いているので、建築関係の学校があればいいと思う。人材不足が一番の問題となっていて、子育て支援等により、地元に残ってもらえる状態を作って、そこから防府で働いてもらうことが理想の形であり、そういう流れを作っていくことが重要である。

【A委員】

中小企業は、非常に人手不足であり、その対策の1つとして、生産性を上げるための設備導入や、ソフト導入をされる企業が多いと感じる。確かに、求人も大切であるが、生産性を上げていくため、設備やソフトの導入などにより、高齢者も含めた従業員にしっかりと取扱い等を説明することで生産性を上げていくことも必要であり、この先を見据えている企業が非常に増えてきていると感じている。

【C委員】

人手不足と関係するが、DX化は業務の効率化が目的であるが、DX化を外注すると、外注先が理解して進めていくのに時間がかかるし、費用もかさむ。人材を育成するのも資金的に余裕がない。また、社内全部に浸透させるには、恐らく5年、

10年単位で進めていくものだと思う。

少子化による深刻な問題で、例えば、30人のうち、10人は進学で、10人は防府市から転出する、残りを取り合いになっている。防府に残りたい人が少なくなってきたことから、逆に、都会から防府に受け入れることも必要だと思う。

D X化を進めるにあたり、県も市も補助金を出しているが、補助金を上手に活用するためにも、県・市の補助事業内容、補助金額等の説明を分かりやすくしていただきたい。

また、物価高騰も深刻な問題。太陽光発電設置の補助金等も必要だと思う。

【D委員】

少子化の問題もあるが、高齢化で確実に寿命は延びていて、高齢者でも働きたいという方は多いと聞くので、労働力としてうまく活用していくと良い。

【C委員】

人手不足に関して、学生たちは、HP等を見て会社概要の確認等を行っていると思うが、実際に行って、どういう仕事をしているのか、どういう仕事が自分に向いているかということが分かれば、ミスマッチが少なくなってくる。また、ミスマッチを防ぐには、高校生たちのインターンシップを増やせば地元に残る子も出てきて、企業の魅力向上にもつながる。

【B委員】

以前もお願いしたが、補助金を活用した事例をぜひ紹介していただきたい。相談対応も必要であると思うが、ある業種のD Xの取組みは、他の業種に使えるということもあるので、いろんな事例を見られたら、その中で参考になることもあると思う。良い事例を皆が行うと良い。

発想力がなければD Xをやろうと思わないので、簡単な事例で結構なので紹介してほしい。

【副会長】

デジタル化について、県が「デジテック for やまぐち」という取組みを行っており、デジタル技術を持った人材がそこに集まって、自分が持っている知識や技術を、企業の色々な要望に答えていく仕組みが出来つつある。

すでに、レノファの関係で、駐車場の利用の把握をして、それをリアルタイムに発信するようなシステムが作られている。

在庫管理のシステムを一般企業に頼んで作ってもらうと、何十万、何百万円かかってしまうところが、「デジテック for やまぐち」では、ボランティアに近い形で専門家の知識や技術によって効率化が図られるので、ここを利用するのも一つ考えられる。

また、カーボンニュートラルについては、防府市の予算にも様々な支援が織り込

まれている。その中で、DXだけを見るのではなくて、カーボンニュートラルも見据えながらDXを進めていくこともあり、DXによってカーボンニュートラルを進められることもある。

令和5年度予算の「エコライフ住宅推進事業」について、これはリフォーム事業であったと思うが、光熱費の削減につながる事業、カーボンニュートラルに取り組むことは、化石燃料などの使用をいかに少なく抑えるかということになってくるので、カーボンニュートラルに取り組んだその時だけ効くのではなくて、10年後、20年後に効いてくる事業になるので、非常に重要である。

【E委員】

エネルギー問題について、(ガソリン) スタンドを会社内に作るとか、少しでも経費を削減できることはないかと考えている。

人手不足については、運送業界は、現在、安価に引下げられた仕事が増加し、同業者は会社をたたむか、防府から撤退している。また、新規参入業者が増えてきており、昔から残っているのは弊社だけになっている。

若い人を雇用するために、運送会社によっては、若い人が喜ぶような動画をアップしており、非常に宣伝効果が高いと思う。弊社は、HPを作成しているくらいであるが、それでもHPを見て来たという方もいるので、宣伝の力は強いと思う。

また、私が20歳の頃、就職先を考えていた時に、親の仕事を継ぐのが多いと聞いてきた。それは、親の仕事を見て仕事の内容が分かっているからである。運送会社はこういう仕事なのかと分かれば、求人も増えると思う。そのほか、求人が多いのは、口コミである。知り合いが誘ったりすると、転職してくれる。それでも、人手不足で全然足りないので、何かいい方法はないかと思っている。

【F委員】

人手不足が深刻なのは、何年も前からの状況である。防府管内でいえば、ここ数年の間で顕著に表れている。例えば、新規の建屋が完成し、オープニングスタッフを募集しても、スタッフが確保できていない店舗を見てきた。店長も後任が決まらないため、一旦店を閉めたという話も聞いた。

女性や高齢者については、うまく就職につながれば良いが、ハローワークで対応できること以外の課題も多い。例えば、認知症が見られる高齢者の就職であったり、子育て世代であれば、保育園に入園が出来れば就職につながるケースもあり、ハローワークでは判断できないことなどについて、色々な関係機関が連携しなければ就職に結びつかない。

現在、ハローワークの募集は、スマホ等でも見られるし、ハローワークを通さなくても、直接、企業に面接に行って完結するシステムが出来上がっている。一方で、いろんな機関が関わって、就職に繋がるケースもある。

人手不足の解消には、実際の現場を見るとか、誰かにアドバイスをもらうとか、どうしても人と人、アナログの部分が出てくると思う。ワンストップ的な相談窓口

があれば、課題も多いだろうが就職につながると思う。

高校生でいうと、コロナになって、進学を選ぶ方が多いので、卒業後に山口県に戻ろうかどうしようか迷っている人が戻ってこられるような発信ができたなら良いと思う。

3 防府市中小企業振興基本計画の変更案について

【事務局】

～防府市中小企業振興基本計画の変更案について説明～

【会長】

第2期防府市中小企業振興基本計画を承認することで良いか。

【出席委員】

全員了承

4 その他

【事務局】

2つのテーマに絞って、御意見を頂きたい。

①原油価格、物価高騰等の影響について

②創業・交流センターでの創業希望者や事業者等の支援について、この施設でどのような支援等が求められると思うか。

【A委員】

原油価格、物価高騰等の影響はかなり大きい。我々が恐れているのは、消費の落ち込みである。プレミアム付商品券については、約10億円。プレミアム効果を合わせると12億円、商品券とプラスαの部分で14億円程度の消費効果があると思う。この時期に商品券を販売することは、非常にタイミングがよく、年末の電気代の支払い月が1月、2月になり、消費の落ち込みにつながるためタイミングが良かった。

現在、中小企業はインボイス制度の関係の相談が多い。この10月に実施されるので、免税事業者に対し、セミナーの開催や周知を行うことで、インボイス制度の登録はかなりされている状況である。税務署や税理士との話では、もう次の段階、申告のことを話されており、インボイス関連の請求書をどのように管理していくのか、小規模事業者や免税事業者の申告をどのようにしていくのが良いのかなど、申告を中心に個別相談などに取り組んでいこうと思っている。

いずれにしても、インボイス関係の相談は増えてきており、しっかりと対応していきたいと考えている。

【会長】

事業者によっては、デジタル化されておらず、手書きの請求書で対応されているところも見かける。デジタル化されていないことで、自社の経営のどこに問題があるのか把握できていないと思う。

インボイスにしても、どこにお金が出て、どう受け取っているかは分かると思うが、どうすればプラスになるのか、どこを削減すれば良いのか、次にどうするのが良いのかに気づくことが、これから中小企業者が一番にやらなければならないことである。

防府市内で生産されて、防府市内で消費されていくことも押さえておかなければいけない。一方で、外からお金を持ってくるというのも、市の発展を考えたときに非常に重要であり、そのためには付加価値が取れる状況をつくる必要がある。高値で売れる状況に変えていくことによって、エネルギー高騰等にも対応できる。付加価値を高めて、価格が高めでもやっていけるよう、コンサルティング機能を使っていくというのが重要である。

【C委員】

経済は、デフレからインフレに変わって、賃上げしなければならない。しかし、企業はそもそも賃上げしているが、賃上げしても手取りで残るものが少ない。社会保険料や市民税が高いということも感じている。

【会長】

一般的にあまり意識がないと思うが、日本の物価は円安で安くなっているし、今後も急激に上がるとは思われていない。日本は高いと言われているが、世界はもっと高い。海外に売っていくというのがとても重要である。

それでは、2つ目のテーマ「創業・交流センターの活用について」ご意見を願います。

【G委員】

創業・交流センターは、オープンしたことは知っているが、利用方法が分かりにくいのではないかと。もう少し分かりやすく、イベントなどでの周知も必要。

【A委員】

現在、1階のレンタルキッチンが空いているが、市内のコーヒーショップで勤務している方が入店されることが決まっており、ここでチャレンジされ、いずれは防府市内に出店されることを期待している。

コワーキングスペースの利用については、大手企業も含めて、市内に営業に来られる方々に空いた時間を利用していただくよう、周知等に取組んでいる。

【H委員】

中小企業が抱えられる問題は、主に、DX、カーボンニュートラル、インボイスであり、コネク22に相談することが、市内中小企業に浸透してきたと思う。金融機関も一緒にコネク22に足を運び、利用を促している。

【副会長】

創業・交流センターで、中小企業が単に交流する場も必要だと思うが、DXやカーボンニュートラルをテーマにした交流の機会といった形での実施はあるのか。

【A委員】

市と一緒に、セミナーや説明会等を行っている。

DXの事例を説明すると、事業者はライフスタイルが変わったから取扱商品を変えないといけない、取扱商品を変える＝店を持って、在庫を持ってという考え方でおられる。そうではなく、バーチャル商品で海外に売り出すことも出来ると説明している。そういった気付く力の部分で、デジタル化人材を作らなければならないが、気付く力も商工会議所、コネク22で誘導し、つないでいくことも力を入れていく必要がある。

【B委員】

創業・交流センターの2階に、オンライン会議ができる会議室があると良い。

【D委員】

家族を守って生活している間は起業等ができないが、定年後に自分がしたためてきたもの、自分の夢を実現してみたいという方もいると思う。

創業・交流センターのコワーキングスペースは、本当にいい環境ができたと思うので、周知することで利用する方が増えると思う。

《その他》

【副会長】

市の予算概要では、カーボンニュートラルの取組で、再エネの導入をどのような形で進められるのか、実際に導入した太陽光パネルがあるのか、市内企業の光熱費にも関わってくると思う。

再エネは、市場に左右されにくい安定的なエネルギーであり、防府市として非常に安定したエネルギーを確保して低価格で地域の電気を賄えることになれば、企業も積極的に入ってくると思うし、メリットになってくると思う。

【事務局】

予算案の概要には、太陽光発電設備の設計を掲げ、市有施設すべてに太陽光を設置できないか、今年度導入可能性調査を行っており、調査に基づいて、導入をどん

どん進めていく予定である。

また、クリーンセンターでは、最新のバイオマス発電設備を設置しており、全国有数の施設である。クリーンセンターは 6,000 世帯分の電力を賄えるが、市としては、一般家庭への電力の供給は考えていない。

市民が、カーボンニュートラルについて認識していただくため、企業の取組を支援していきたいと考えており、県もDX、カーボンニュートラルに補助金の予算がつけられている。経済省、環境省にもメニューがある。カーボンニュートラルの取組支援は、市よりも県、国の方が補助額が高いので、そちらに誘導していきたい。

【会長】

私自身の実感では、中小企業者のカーボンニュートラルに関する意識が低いと感じている。DXは初期投資が大きく大変と思うだろうが、DX化により数年経過すると効率化ができる、新たな活用ができる、とある程度のメリットがあると認識している。

ところが、カーボンニュートラルに関しては、なんとなく押し付けられている感が強く、追加コストが発生すると思われるのではないかと。そういう認識の方が強いのではないかと思う。それは違うと言いたい。ビジネス環境を考えたときに、カーボンニュートラルが求められる。意識の変革が必要と思う。

【C委員】

補助金の活用については、企業者間での口コミが多い。こういう例で活用したという話は聞くが、国、県、市等の補助金は、該当する項目、金額、規模で様々ある。大規模の場合は、国になるとか、中規模の場合は、県、市になるなど、補助メニューの周知を徹底すれば、もっと活用していけると思う。

【会長】

例えば、カーボンニュートラルのセミナーを開催する際には、「カーボンニュートラルに向けて」というテーマであると、関心を示さない方が多い。そのため、テーマを「カーボンニュートラルの時代におけるエネルギー効率化戦略」など、関心を持たれる仕掛けも必要である。

以上

【市長】

～閉会 挨拶～

本日は、貴重な御意見をいただき感謝申し上げます。

コロナ禍で、ルルサスに設置している相談窓口に来られる中小企業は、市、県、国の補助金を上手に活用されている。委員の意見をお聞きし、創業・交流センター、コネクト22の役割は大きいと感じている。創業・交流センターに来れば、公的な

補助メニューをはじめ、様々な相談等ができる施設として、商工会議所と一緒にあって、しっかりとPRしていくとともに、補助金の活用事例をしっかりと紹介していきたいと思っている。

また、委員から、「親の仕事を見て育つと、仕事内容が分かるので親と同じ仕事に就くことが多い」、「建築関係の人手不足が深刻である」という意見をお聞きし、現在、市役所の新庁舎や、競輪場が建築中のため、子どもたちに現場を見てもらい、将来、建築関係をやってみたいと思っていただくこと、これもインターンシップの一つだと思っており、見学等を行っていきたくと考えている。

他に「都会から山口県に戻るか戻らないか」という話もあったが、ふるさと回帰センターなどで、しっかりと防府をPRしていきたいと思っている。

防府は、都会から見ると車が無くても生活できる街だそうで、平坦で、駅周辺に住めば、医者、ショッピングセンター、お店もあるということで、PRしていきたいと思っている。

カーボンニュートラルについては、昨日、産業戦略本部において大手企業からいろいろ話を頂いたが、この先どうなるのだろう、というのが正直な意見だと思います。

市としては、日頃から節電、ゴミ減のキャッチコピーを作って、市民運動を行っており、皆さんと一緒にチャレンジしようと思っている。

委員の皆様からのご意見を、新年度予算の執行にあたってしっかりと踏まえながら、また、その先に向かって、中小企業振興基本計画に則り、中小企業の皆さんにとって役立つ施策なるよう取り組んでまいりたい。

会議終了 午前11時50分